

広島市植物公園

見どころ案内

スカーレットオーク
(ブナ科)

北米東部原産の落葉高木。深裂した葉が特徴的で、紅葉もきれいです。

展示会のご案内
◇展示資料館 1F (10/19~12/24)
特別企画展 種子の不思議展

ニトベギク (キク科)

中米(メキシコ)原産。和名は明治時代に新渡戸稲造が導入したことに因むとされています。株丈が高くなることから、皇帝ヒマワリとも呼ばれます。広島では冬越しが難しいので、1年草として扱います。沖縄などの暖地では多年草になり、しばしば逸出した株を見かけます。

食用菊 松波 (キク科)

料理のつまとして用いられる花を食べるキクの品種です。国産の半分以上は山形県で生産されています。

もってのほかや阿房宮など多くの品種が流通しています。

モクキリン

(サボテン科)
原始的なサボテンのなかまです。明瞭な葉を持ち、木の葉サボテンとも呼ばれます。

クンシラン

(ヒガンバナ科)
南アフリカ原産のヒガンバナ科の植物です。名前に「ラン」が入っていますが、ランのなかまではありません。明治時代に渡来した植物で、オモトなどと同じく、古典園芸植物の一つで、葉の美しさを楽しみます。

スズランノキ (ヒユ科)

アメリカ東部原産。5月に白いスズランに似た芳香のある花を咲かせます。紅葉がきれいなことから、ニッサボク(ツバキ園)・ニシキギ(展望塔斜面)とあわせて、世界三大紅葉木と称されています。

サザンカ 乙女 (キク科)

サザンカの園芸品種で、ピンクで小ぶりな花がついています。花をよく観察すると、中心部の雌しべまで花びらに変化していることから、八重咲きではなく、千重(せんえ)咲きと表現されることもあります。

ロウヤガキ

(カキノキ科)
中国原産。ツクバネガキとも呼ばれ、盆栽仕立てにされます。小さめの実を鈴なりにつけています。

野生ギクの花壇

本園の野生ギクの多くは、広島大学植物遺伝子保管実験施設[キク属のバイオリソースセンター]から譲り受けたものです。今回は特設花壇を設け、キクタニギクなど18種の野生ギクを展示しています。多様に進化した花姿を観察してみてください。

セイヨウヒイラギ

(モチノキ科)
英語ではホーリー(Holly)と呼び、赤い実のついた枝はクリスマスの装飾に用いられます。雌雄異株ですが、単為結果するので、雌株のみで実がつきます。モクセイ科ではなくモチノキの仲間で、ヒイラギモチとも呼ばれます。

特別企画展 種子の不思議展

多彩な種子の秘密を実物やパネルを使って紹介します。種子が飛ぶ様子やひつつき虫のダーツなどが体験できます。

